

学校法人 村上学園

村上学園

二〇二二年令和四年 一月二五日 発行
発行元（発行責任者）
学校法人村上学園 法人事務局
参事（広報担当） 寺 川 誠
東大阪市西堤学園町三二一
電話 〇六六七八一二四四四
URL <https://www.murakamigakuen.jp/>



シンボルの鹿(R4.1.7撮影)

☆紙面案内

- 1面：～進路を考える
（夢をつかむ）③～
2面：1面より続く
～進路を考える
（夢をつかむ）③～
仙ミネ・ヨシ点灯：ヤマガタ
「あんしんのたわごと」
3面：伊勢本街道 延ちゃん道中記
その3（経向～榛原～山粕）
4面：附属幼稚園にサンタさんが
入試対策講座開催
編集後記

～進路を考える（夢をつかむ）③～

憧れの中学校（公立）家庭科教員、現役二名合格

東大阪大学短期大学部 実践食物学科

「進路考える（夢をつかむ）」の第三弾。憧れの中学校家庭科の教員になるという夢を実現させるために東大阪大学 短期大学部 実践食物学科に入学した「柴村瞳さん」「中川早智さん」が、中学校家庭科の教員採用試験に現役で見事合格し、思い続けていた夢をつかむことができました。家庭科の先生に憧れ挑戦。努力を続け、苦しいときも励ましあいながら、ついに夢を叶えたお二人

人の話を、東大阪大学HPより紹介します。今回で三回目の「進路を考える（夢をつかむ）」です。自分の夢を追い求めようとしたり、たきかけはそれぞれで違いますが、明確な目標を持ちそれに向かって、立ち足はかかる困難に挑む姿勢は共通のものがあります。お二人には、これまでの経験を活かし素晴らしい先生になるよう期待しています。

～家庭科教諭を目指したきっかけを教えてください～

柴村さん 私は中学一年生の時から家庭科の先生になるのが夢でした。中学校の家庭科の先生に憧れたからです。その先生の授業が本当に楽しかったんです。調理実習を多く取り入れてく

れて、さらに生徒が楽しめる内容でした。手打ちうどんをみんなで作ってみたり。あと中学校三年生の最後の授業では、班ごとに自分たちでメニューを決めて調理しました。私の班はロールキャベツを作りました。生徒の自主性にまかせた、なかなか中学生では経験できない授業でした。今振り返ったら、すごいことだなんて思います。自分だったら全員同じメニューでやりたいなんて思うし、材料などの仕入れも大変だし。自分にもできるかな？って。そのおかげで、家庭科の授業に興味を持てたというのが一番大きかったです。

さらに先生は私の所属するバスケット部の顧問でもあったので、ただ指導するだけじゃなく一緒にやってくれる、というところがいいなあと憧れを持ちました。

中川さん 私が家庭科の先生になりたいと思ったのは、高校三年の六月で、進路選択の

が、東大阪大学短期大学部に魅力を感じ、決めました。

～いざ入学してみよう～

柴村さん 本当のことを言うと、短期大学で教師になれるかなっていう不安は、めちゃくちゃありました。今まで出会ってきた先生も四年制大学出身だったし。でも入ってみたらあつという間に不安もなくなって、教員採用試験に向けて先生にたくさんサポートしてもらいました。テストに向けて問題を提供していただいたり、面接の練習もたくさんしていただいて、さらに授業もとても楽しいので、本当にこの学校に来てよかったなと思います。

中川さん 私は福岡県出身なのですが、親元を離れて、「知らない土地で」「短期大学で」って不安なことはいっぱいあったし短期大学で「教職を」ってなると、実際に、時間割が詰まっ



中川 早智さん

ていて、結構しんどかったけど、同じ教職を目指す友達や同じ学科の友達がすごく優しく、そこに支えられました。

柴村さんも言うてましたが、四年制大学に行って教職の勉強をして、教員採用試験を受

けて先生になるっていうのが王道だけれど、自分たちは短期大学二年間で、しかも現役合格も難しいってずっと言われてたし、現場に行っても、周りより若いからいろいろと難しいと感じることもいっぱいあって、正直めちゃくちゃ不安でした。でも普段の授業で食物について重点的に習っていたから、教員採用試験に役立ちましたし、この学校に来てよかったなって思います。

～かなりハードな様子ですが、くじけたときは？～

柴村さん あります。何回も。教員採用試験は六月にテストがあるので、それまでに習う範囲を間に合わせないといけないので、一年生から勉強を始めないといけない。全部独学なんです。そこが本当にきつくて。全然わからないし、点数も上がらないし。そこでくじけたんですけど、中川さんががんばっているのを見て、私もがんばろうって乗り越えられました。

中川さん 私は、住んでいる京都市と地元

福岡市とどちらも受けたので、大変でした。高校が総合学科だったというのもあって、国語や歴史など一般的な勉強を高校一年生くらいからしていない状態で、一般教養の勉強が始まったり、教職教養も全然わからない。自分で問題を解いてみて「今回結構いけたかも！」って答え合わせしたら、半分も取れてないとか。そういうのが気持ち的にしんどかったですね。それこそ柴村さんだったり、地元の友達も同じ時期に就活でめちゃくちゃ苦労していて。みんなががんばってるから、私もがんばりました。

～おふたりは仲がいいんですね～

中川さん 入学してからすぐに「教職取ってる？」「取ってるー」みたいな。学校帰りの電車が柴村さんと一緒だったこともあって。その時によく教職の話をしました。

～教育実習について聞かせてください～

中川さん 教育実習では、授業をさせていただったり、指導案の作成をしました。実習生が私を含めて八人いたんですけど、それぞれクラスに入って、学級活動に参加したり、給食を一緒に食べたりにして、三週間過ごしまし

た。初日から授業を受け持ちました。授業では、その前の授業で出されていた課題の答え合わせをしました。ミシンの各部位の名称だったり、縫い方の説明とか。丸付けしながら説明をしていくという内容でした。とても緊張しました。最後の査定授業では、「災害時の非常用持ち出し袋の中身をみんなで選ぼう」という授業をしました。内容について先生に褒めていただきました。生徒たちの反応も、「私はこれ入れたい。だってこうだから」って自分の意見を言ってくれたりして。選ぶための授業だから、先生の話を聞くだけの授業ではなく、自分たちも参加できる内容だったのだ、すごく楽しそうにしてくれていました。三年生の授業の時に失敗してしまっ

たことがあって。私は見学だけで、声掛けをしてみるという形での参加だったんですが、みんなで二年生の時に作った紙飛行機を飛ばしてみようっていう授業で、ずっと座りこんでいる生徒がいたんです。体調が悪いのかって思ってたんですけど大丈夫？ってという声掛けをしていたんですが、実はその授業の前に行われた小テストがうまくいかなかったから落ち込んでいたんです。それに気づけなくて。申し訳なかったし、足りてないなって。失敗してしまっって、次からの授業が怖くなってしまったりもしました。授業を受け持つ大変さを感じましたが、クラス全体が楽しそうにしていたから「みんな楽しんでる！いいな！」って思っていたけど、実際そうでもない生徒もいる。全体が楽しんでいたらこの授業はよかったね、ってことじゃないんだなって気づきました。

柴村さん 初日はオンラインでの全校集会であいさつから始まりました。緊張しました。私はカメラに向かって話しかけるんですが、生徒の顔が見えないので反応がわからず、私の言葉が伝わっているのか、イメージが持たなかったですね。実習の間は授業に入ったり、放課後部活に行ったり、体育祭が近かったので学級旗と一緒に作ったりしました。やっぱり授業をすることが一番楽しかったです。授業のたびに反省することばかりなんですけれど、自分の好きな科目を教えることは楽しいなって喜びを得ることができました。

～ふたりとも憧れた家庭科の先生がスタートでしたが、いざ受け持つとみるとどうでしたか？～

中川さん 思い通りにいかないってというのが大きかったです。私が憧れていた先生の授業って、かなりの準備が必要で。だけど実際準備の時間はそんなにないし。仕事を早く済ませることだったり、優先順位をつけたり、そういう基本的なことができるようになるなあと、その先生みたいな授業はできないなと

Xmasイルミネーション点灯 キャンパスツアー開催(～12/24) (東大阪大学・同短期大学部)



東大阪大学・同短期大学部では、正門入ってすぐの庭が、美しいクリスマスイルミネーションに包まれました。これらはリサイクル対策として資源ごみで回収されるペットボトルを、ランプの傘として再利用しています。ペットボトルの効果もあり、イルミネーションは、幻想的で優しい光を放っています。冬の間、夕方には木々や道等、学園の庭を照らし続けています。



この時期、東大阪大学・東大阪大学短期大学部の正門中庭は、クリスマスのイルミネーションで彩られています。12月10日（金）から12月24日（金）の期間、17:00頃から、キラキラのイルミネーションや可愛い鹿さんを見て、そのまま気になる学科の話を聞いたりキャンパスを見学するツアーを開催しました。マンツーマンで職員が案内し、気になることや分からないことなど、気軽に相談できたのではないのでしょうか。また、最終日がクリスマスイブであり、サンタさんからささやかなプレゼントもありました！



感じました。

柴村さん 憧れた先生と同じテーマの授業をしてみても、私には足りないところが多くなって思っています。実習では、それまでの流れもありますが、授業内容を自分で考えて、指導教諭に相談して、それで行くという認めてもらってから教壇に立ちます。私は、保育園・幼稚園・認定こども園の違いとか、ミシンを使ったかばん作りなどをしました。最初の授業は戸惑ったり焦ったりしましたが、やるたびに先生からの講評をいただけて、改善して次に、次に、つたなげていけたので、最後の授業はうまくできたかなと思います。その最後の授業では、加工食品について取り上げました。加工食品の意味や、主な加工食品について、

また加工食品を普段の食事に取り入れることで、自分で調理することが少なくなってしまうので、その問題点とかをみんな確認したりしました。でもやっぱり先生の大変さが一番の気づきでした。
くいよいよ四月から憧れていた家庭科の先生になりますね。

中川さん まず現場になじむ、っていうのが一番大事かなって思っています。新任で、生徒とも年齢が近いし、どうしても距離が近くなっちゃうことがあるから、そこはしっかりと自分の中で折り合いをつけて、いい意味でお姉ちゃんだったり、お母さんみたいな、そういう先生になりたいなと思っています。

柴村さん 実は、自分が憧れていた先生が教育実習の指導教諭だったんです。その先生が私に「生徒がいる時間は生徒と向き合おう。常に熱い気持ちをもちた教員になってほしい」という言葉を贈ってくれました。先生自身がモットーにしている言葉でもあるので、少しでも近づけるように全力でがんばりたいです。

く将来の目標を教えてください。

中川さん 今から年齢と経験を重ねていくにつれて、自分の中でもできることの幅が広がってくると思うので、今まで経験してきたことを活かして、私が憧れた先生みたいに、それを生徒にしっかりと還元できるように努力していきたいです。

柴村さん 私が担任を持ちたり、私の家庭科の授業を受けた生徒たちが、教えたことを日々の生活の中でちょっとでも活かしてくれたりうれしいなと思うし、先生が担任でよかったって思ってもらえるような人になれるようにがんばりたいです。

く夢を持ち続けて努力し実現できた今、悩んでいる高校生に伝えたいことはありますか？

中川さん 短期大学二年間で教職を、多分高校の先生も驚くと思うし、自分も不安だと思ったり、保護者も不安だと思ったり。みんな不安になるだろうけど、実際私たちはすごい不安だったし、でも、私はがんばったなら、というか叶ったので、「短期大学だからダメなんじゃないか

く嫌いな人からも学べく

中国の古い言葉の中に、次のようなものがあります。

“他人が自分を知らないと言って悩むことはない。それより、自分が他人を知らないことを心配すべきだ。”

私たち、職場には必ず「知で生きる人」と情で生きる人」があると思います。（私は後者だと思っています。）「知力」で物事を判断する人と「情」で自分の心を受けたインパクトで判断する人です。

情で生きる人は、「あの人が嫌い好きか」ということが、判断基準になることがあります。本来、私たち職場における組織の仕事判断は、教育上「何をやっているか」という内容が、「何のためそういうことをするのか」という目的により判断されるべきが正しいことでもあります。しかし、なかなかそうはいかないことが多いと思います。どんなに冷静に論議をしても、やはり人間には感情抜きというにはなりません。ですから、時には「俺はあいつが嫌いだから、あいつのやることがいかに正しく立派なことでも俺は認めない」という判断を下す人がいるものです。このような人

「あんしん」のたわごと⑬ ～ 嫌いな人からも学べ ～

“嫌いな人からも学べ”
嫌いな人だからこそ語り、付き合いを大事にしたいと思ってきました。

（故岡崎安伸先生の遺稿より）



な」と思わずに、ちょっとした可能性があるならあきらめないで、夢に向かってがんばってほしいです。

柴村さん 私は何をやるにしても、自分の中で目標を持つことを常に忘れないようにしています。この学校に来たことも「教師になるために」っていう目標を持っていたからだし、今、夢が叶ったけど、教師としてまた新たな目標が生まれるし、日々目標を掲げるっていうことが自分のがんばる源にもなるかなって思っています。目標を持つことは大切だと伝えたいです。

伊勢本街道 延ちゃん道中記（その3）

JR巻向駅～（榛原）～山粕 30km

「伊勢本街道延ちゃん道中記」の第3回です。前回ではJR巻向駅で落としたのに気づいた延ちゃん。JR桜井駅から、JRで巻向駅に逆戻り。落としたPITAPA発見。ホッとして家路につく。

東大阪大学柏原高等学校では、年末に3泊4日をかけて柏原高校から伊勢神宮（内宮）まで歩いて旅をする「伊勢徒歩旅行」を、隔年で行っています。当時、東大阪大学柏原高等学校校長だった「延ちゃん」。「伊勢徒歩旅行」の陣中見舞いに行き、宿泊先の「美榛苑（榛原）」から昼食休憩地の山粕までを生徒と一緒に歩くことに。その行程が今回の道中記に含まれています。奈良盆地を北から南へ歩き、桜井で伊勢方面に向きを変え東進。榛原から、いよいよ伊勢本街道の難所（次回）に差し掛かります。交通機関の無かった昔の旅人に思いをはせながらの道中となります。山越えはきつい。「がんばれ延ちゃん」……。



伊勢本街道ウォーク～奈良街道・上街道・初瀬街道～ 作：法人事務局参与 金治延幸 氏

伊勢本街道の看板
伊勢本街道の看板

午前九時、JR万葉まほろば線巻向駅下車。竜王山、車谷、三輪山を望みながら、箸墓古墳（邪馬台国畿内説では卑弥呼の墓とされる巨大な前方後円墳）の直ぐ東を通り三輪へ。上街道の南四分の一を歩く。三輪からは坂道を上り、しばらく山の辺の道を通る。二上、金剛、葛城、畝傍、耳成の山々がよく見える。金谷の石仏から東へ。初瀬川の堤防に「仏教伝来の碑」が建っている。桜井市周辺は、古代国家の中心地で、纏向遺跡、数々の巨大古墳、出雲集落と相模発祥の由来、古代交通の要衝「つばいち」の古跡がそれを物語る。平野部に出て、視界が急に開けてきた。

出雲集落を抜けて一六五号線（国道）を歩く。いわゆる初瀬街道だ。やがて自動車道からそれて長谷寺の参道筋を上る。商店街は閑散としているが、正月準備には余念がない。すでに飾りつけが終わっている店もある。旅館や土産物屋を横に見て、長谷寺手前から伊勢辻へ。高低差をさほど意識していなかったが、長谷寺参道から分かれた伊勢街道は、急坂続き。息せき切って登り、一山越えて一六五号と合流。以降、西峠までの長い上りを旧道があらば旧道を通り、一路榛原へ。緩やかだが長い登りは歩行ペースが落ちる。一時間に四、五キロのペースだ。一六五号線は車ではよく通るが、これほどまでの上りとは気づかなかった。榛原は、冬に雪が多いのも頷ける。ようやくにして西峠を越え、市街地を下り榛原駅に向かう。「伊勢本街道」の看板



三輪山を望む

村落を通ると、よく声掛けをしてくれる。高井の集落だ。「どこまで行きゃはるのん」「大阪の柏原から伊勢神宮まで」「やー、今どきえらいねえ。頑張つてね。」などと。なかなかの企画である。こんな行事が残っていることが素晴らしい。毎回引率している引率責任者の谷山教諭（平成三十一年



伊勢おかげ参りのお札

朝七時半、美榛苑を出て、伊勢本街道へ。一日目の数十キロの行程がこたえているのか、多くの生徒は足を引きずっている。新道（国道三六九号線）に並行している旧道があれば旧道を歩かなくていい。伊勢おかげ参りの札

前を通り、榛原到着一二時五〇分。上り坂が多く、距離の割に疲れた。例によって、まとまった食事は摂れないので、急行電車の車中で、缶ビールとおにぎり・おつまみで昼食。車中での飲食は、特急電車でないで少し恥ずかしかったが、車両はガラガラで気にすることはなかった。二〇一九年を締めくくるさわやかな年末のウォークとなった。

（没）のタフネスぶりに驚かされる。生徒たちの疲労度も考慮し、旧道が峠越えになると新道のトンネルを歩行。やかましいが、早くて楽だ。脱走しかけの生徒を励ましながら歩き、トンネルを三つぐり、山粕着。コンビニで昼食弁当を立ち食い。以後一行と分かれ、伴走車（美榛苑へ送ってもらった）に車でも歩いたのに車で歩いたのに車では五分ほどだった。徒歩旅行一行は、もちろん伊勢へ。一行の無事と満願成就を念じつつ、心地よい疲労感の中、自家用車で学校に戻り職務に就く。

十二柱神社：桜井市の伊勢街道沿いに鎮座する神社で、その名の通り12の神様を祀る神社です。当社は相模関連の地として知られており、出雲集落のこの地は日本初の天覧相模で勝利した 野見宿禰（のみのすくね）を祖とし、境内に五輪塔があります。また、第25代武烈天皇の「白瀬列城宮跡」伝承地とされています。

長谷寺：朱鳥元(686)年、僧道明上人が天武天皇のために銅板法華説相図(国宝)を西の岡に安置したことが始まりという。平安時代には貴族、江戸時代には徳川家の崇敬を集め帰依を受けて栄えた。舞台造の本堂(国宝)は徳川家光による再建。寺宝類としては、本尊十一面観音像をはじめ、約千点にも及ぶ文化財を所蔵する。仁王門を抜け、本堂へと続く登廊(重要文化財)は399段に渡る石段になっており、天井には楕円形の灯籠が吊られている。登廊は4月下旬から5月上旬に見頃をむかえるボタンに彩られる。西国三十三所第8番札所となっている。



仏教伝来之地の碑：桜井市金屋の河川敷のあたりは、昔、大陸からの船が難波から大和川をさかのぼり、到着する船着場があった場所。外国から多くの遣い物資が上陸したと伝えられています。欽明天皇の時代に、百済からの使節も川をさかのぼり、この地に上陸。仏教を伝えたと言われています。現在、その地には金屋河川敷公園が整備され、「佛教伝来之地」の碑が建てられています。

附属幼稚園にサンタがやってきました！！



12月生まれのお友達が舞台上がり、みんなから歌のプレゼントや、贈り物をいただき、楽しく過ごしました。



12月16日(木)、東大阪大学附属幼稚園では、12月の「お誕生会」と「X'mas会」を行いました。

「お誕生会」では、12月生まれの28名のお友達が舞台上に整列し、みんなからお祝いの歌を歌ってもらいました。また、担任の先生からお祝いの品物を送られ、楽しい一時を過ごしました。

その後、一足早い「クリスマス会」をしました。サンタさんが来てくれるように、みんなで歌を歌うと、トナカイさんがそりを引いてやってきました。サンタさんはいません。子どもたちは歓声を上げましたが、サンタさんがいないことに気づきガッカリ。トナカイさんは迷っているサンタさんを探し、登場しました。

子どもたちは、興奮気味で歓声を上げています。サンタさんは子どもたちへの贈り物を担いでいます。サンタさんからの贈り物は一人ずつありますが、担任の先生がまとめて受け取ります。何が入っているか楽しみです。教室に帰ってから受け取ります。

最後に、クラスごとに、サンタさんと記念撮影をし別れを告げて教室に帰りました。

とても楽しい一時を過ごせました。

サンタさんトナカイさんお疲れさまでした。



サンタさんからの贈り物を、担任の先生が代表して受け取ります。子どもたちは興味津津。



クラスごとにサンタさんと記念撮影



十二月二十五日(土)、東大阪大学敬愛高等学校及び東大阪大学柏原高等学校では、取り組み始めて十年を経過している受験生を対象とした入試に向けた対策講座(事前申込み制)を開講しました。早朝から多数の受験生が来校し、会場は熱気に包まれていました。受験生にとって、冬休みは受験に向けて非常に重要な時期です。村上学園の両高等学校では、受験生の学習を少しでもサポートできるように毎年実施してきました。入試科目(国・数・英)の学習の仕方や問題の解法など、短時間ではありませんが各教科の教員を中心に指導し、

また、令和四年度入試に関するお問い合わせは、各高等学校入試広報部まで。

今回学んだことを基にして、これから一次入試までの残された期間をより効果的にしっかりと学習に取り組んでもらい、良い結果に結びつくことを期待しています。

令和四年度入試対策講座会開催(12/25)

東大阪大学敬愛高等学校・東大阪大学柏原高等学校

★編集後記(日々雑感)

今号一面掲載の「進路を考える」の三回目。大学・短大部のホームページからの記事です。あこがれていた中学校教員として教員採用テストに合格し、四月から教壇に立つことになりました。短大部のカリキュラムの学習に加え、教員採用テストへの取り組みをしなければならぬ厳しい環境を二人で乗り越え、合格にこぎつけたことはとても素晴らしいことで、心よりお祝いしたいと思います。おめでとございます。しかし、ここが人生の一つの節目。「初心忘るべからず」。厳しい中で頑張り「合格にこぎつけた経験」を教員人生に活かし、生徒目線に立てる教員として成長することを期待しています。

「進路を考える」の一回目(第五号)で取り上げたのは、「居酒屋のおっちゃん」で「エネン」と言っていた東大阪大学柏原高校の生徒が、担任のかかわりの中で「消防官」になる夢を追いかけて、「海上保安官採用試験」に合格する記事、二回目(第十号)は、「中学校教員」から渡米し「芸術家」になった私の知人を取り上げました。一回から今回まで共通して言えることは、二人が最後の質問で言っていること、「少しでも可能性があるなら、あきらめないで夢に向かって頑張ること」「目標をしっかりと持つこと」の二点です。

村上学園に在籍している生徒や学生が、学園での学びの中で確実に成長している姿が、そこにあると感じます。

これからも、広報紙を通じて学園在籍者の成長をお知らせしたいと思います。

(編集者 寺川誠)



<https://murakami-gakuen.jp/> <https://murakami-jyugakuen.jp/>